

教育事業「日独青少年指導者セミナー」

1 趣 旨

「子ども・若者の力を育む～若い人の力を育むための青少年教育の果たす役割～困難を抱える青少年への支援」をテーマに、青少年から大人への成長段階で困難を抱える青少年が生まれる背景とその支援策の理解に重点を置き、日独の行政機関、関係団体・施設等での実地体験、青少年指導者との研究協議を行うとともに、課題の解決策について検討し、青少年教育指導者の資質・能力の向上を図る。

2 ねらい（プログラムのポイント）



- ・日本における非行少年のための相談業務、虐待を受ける青少年の支援と背景及び非行の要因と処遇までの制度について学習する。
- ・ホームステイ体験により、日本人の日常生活及び習慣に対する理解を促進する。
- ・困難を抱える青少年への支援事業について意見交換を行う。

3 日 程

(1) 期 日 平成24年5月17日（木）～5月21日（月）【4泊5日】

(2) 参加者 ドイツ団員9名（男性2名、女性7名）

(3) 研修内容

5月17日 （金）	午 後	石川県到着 金沢観光（兼六園・金沢城）	
5月18日 （土）	午 前	金沢市教育プラザ富樫視察、 概要説明、職員との意見交換	
	午 後	金沢少年鑑別所視察、 概要説明、職員との意見交換 入所式・ホストファミリーと対面	
5月19日 （日）	終 日	ホストファミリーと共に過ごす	
5月20日 （月）	午 前	座禅体験	
	午 後	施設見学、団員ミーティング 交流パーティー	
5月21日 （火）	午 前	国立能登青少年交流の家の教育事業及び取組みについて 困難を抱える青少年を対象にした事業の紹介（事例発表） 職員との意見交換	
	午 後	東京へ移動	

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 児童相談所や鑑別所などの専門機関への訪問を通して、日独の制度的な違いや、それぞれの関係機関における支援体制や支援方法の相違点・共通点について学ぶことができた。
- ・ 国立能登青少年交流の家での意見交換では、青少年指導者としてそれぞれの分野や立場で、実践できる教育や支援のアイデア、アプローチなど、参考となる内容を学ぶことができた。
- ・ 日独の青少年教育に携わる指導者同士の意見交換や交流を通じて、お互いの国の取り組みや対応について知ることができ、改めて自国の青少年教育について考える機会となった。
- ・ 日本での研修を通して、学んだことや感じたことから、日本に対するアイデアの提案として、「事業等の学術的な分析・検証と、支援者としての教育技能の向上」、「非行少年に対する統合的なアプローチの実施」などがあげられた。
- ・ ホームステイでは、日本の家族とのふれあいや日本の生活体験、観光など、日本の文化等を体感する貴重な経験になった。
- ・ 史跡・名所への訪問や和太鼓披露、座禅体験など、日本の歴史や伝統・文化にふれる機会を設けたことで、日本に対する興味関心が深まり、研修とは違った視点での学びや気づきがあった。

(2) 課題

- ・ 関係機関や団体との協力体制の構築及び継続的な連携。
- ・ 国際交流事業のあり方やノウハウの蓄積。
- ・ 訪問施設や受入施設だけでなく、広域的に、困難を抱える青少年への支援に携わる指導者が意見交換や交流ができ場の設定。
- ・ ホームステイの受け入れ先の確保。



能登青少年交流の家プログラム

